

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

### 子どもは地域の宝物，共に生きる

宮城県本吉町立津谷小学校長 熊谷 政義

「校長先生，さようなら。わんぱくに行ってきます。」

放課後，昇降口で毎日交わされるあいさつです。「わんぱく」とは，本校の「放課後子ども教室」，通称「わんぱくクラブ」のことです。授業から開放された子どもたちは，喜々として駆けだしていきます。子どもたちにとっては，よほど楽しいこと，楽しい人，楽しい空間が待っているのでしょう。

木造の旧校舎2階にある「わんぱくクラブ教室」を時々のぞいてみると，地域住民による「安全管理員」と顔と頭を突き合わせ，学校での出来事について話をしたり，宿題をしたり，絵を描いたりして，思い思いに活動しています。まるで，ひと昔前の『大家族の家』のようで，何とも微笑ましい光景です。

地域の大切な子どもたちを，地域全体で見守るために開設されたこの活動は，この度，優れた取組として文部科学省から表彰を受けました。

地域の大人と子どもが，心と心を通わせ，人としてのルールや社会のルールを自然に身に付けさせていくこのような取組は，地域社会の本来あるべき姿だと，子どもたちの姿を見て，つくづく感じます。この素直な子らの笑顔がずーっと続くことを願いながら……。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第116号に掲載)